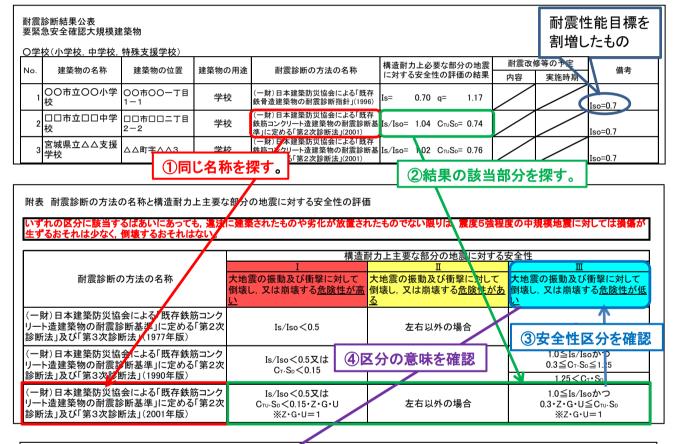
## 耐震診断結果の見方

- ① 耐震診断結果の「耐震診断結果の方法の名称」を確認し、附表の「耐震診断の方法の名称」 の中から同じ耐震診断の方法を探します。
- ② 耐震診断結果の「構造上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果」を附表のどの区分に該当するかを確認します。
- ③ 該当する部分の区分の安全性を確認します。
- ④ 安全性の区分Ⅲ「危険性が低い」は、現行の耐震基準に相当するものです。これを下回ると 区分Ⅱ「危険性がある」、区分Ⅰ「危険性が高い」となります。 いずれの区分も震度6強から7に達する大地震に対する安全性を示したものです。



- I 震度6強から7に達する程度の大地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い
- Ⅱ 震度6強から7に達する程度の大地震の推動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある
- Ⅲ 震度6強から7に達する程度の大地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い

## 用語の説明

「Is」「GIs」:構造体の耐震性能を表す指標(この値が大きいほど耐震性能が高い)

「Iso」: Is値の判定基準となる目標値(一般的には0.6だが、それ以上の場合は備考欄に記載)

「Is/Iso」:Is値が目標を上回るかを確認したもの。多くの診断方法はこの結果で判断する。

「q」「CT・SD」「CTU・SD」:構造体の粘り強さ、建物の平面・立面形状から求められる指標(この数値が大きいほど耐震性能が高い)

「Z・G・U」: Z地域特性(地震活動等), G地盤特性(地形等), U建築物重要度等から目標値を補正するための指標(補正が無い場合は1.0となる)